



市では、「集団行動をとりにくい」「言葉で伝えられず手が出る」「注意したことを繰り返す」など、気になる行動がある子どもに対して、一人ひとりに適切な対応をとることで、すべての子どもたちの成長を促せるよう、さまざまな取組を行っています。

特別支援保育への取組をご紹介します 子どもたち一人ひとりのために

保育関係者を対象とした専門研修の実施

兵庫教育大学大学院 臨床・健康教育学系（特別支援教育学専攻）発達障害臨床心理学・応用行動分析学を専門とされる井澤信三准教授と連携し、特別支援保育を行う上で必要な知識を深めるための研修会や連絡会を開催しています。



保育関係者への専門研修

ケース会議等、支援体制の確立

子育て支援課に統括コーディネーター、市内全保育所に特別支援保育コーディネーターを配置し、気になる行動がある子どもに対して、保育所内で支援方法を検討する「ケース会議」を行うほか、統括コーディネーターによる各保育所の定期巡回などを実施しています。

コーディネーターの配置、保育所の定期巡回、ケース会議の実施、支援案の提供は、県内では加東市だけの取組です。

子どもに気になる行動が・・・

保育所内でケース会議が行われ、支援案が立てられる。

ケース会議で決まった支援を実施する。

子どもに好ましい変化が見られる。

好ましい変化が見られなければ、再度支援案を練り直す。

これらの取組により、次のような成果がありました

適切な対応により、言葉で「貸して」等の表現ができる、順番が待てる、ルールを守って遊べるようになるなど、子どもの行動に好ましい変化が見られるようになりました。

コーディネーターを中心にケース会議を行うことで、保育所内で子どもの状態や支援状況等の情報を共有でき、協力体制が組めるようになりました。

コーディネーター連絡会を通じて、各保育所での支援の工夫などをお互いに情報交換し、それぞれの保育所に反映できるようになりました。

特別支援保育は、決して特別なことではなく、すべての子どもや大人にとって「分かりやすい対応」だという認識が出てきました。

保育士全員が、子どもの行動を客観的に捉えられるようになりました。

今後、市内どこの保育所に通っても、個々に合った適切な支援が受けられるよう、コーディネーターを中心とした体制をさらに充実していきます。

問い合わせ 福祉部子育て支援課（社庁舎） ☎43-0408